

再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：本省 都市・地域整備局 街路課

担当課長名：松谷 春敏

| | | | | | | |
|--------------------------|--|---|--|--------------|------|-------|
| 事業名 | 地域高規格道路 大分中央幹線道路 都市計画道路 庄の原佐野線 | | 事業区分 | 街路 | 事業主体 | 大分県 |
| 起終点 | 自：大分県大分市大道町 至：大分県大分市六坊北町 | | | | 延長 | 1.9km |
| 事業概要 | 本路線は、大分市街地の生産活動や都市活動を支え、新市街地形成を支援する東西の都市軸道路であり、大分駅周辺総合整備事業（大分駅付近連続立体交差事業、大分駅南土地地区画整理事業）と合わせて実施。 | | | | | |
| H5年度事業化 | S51年度都市計画決定 (H6年度変更) | H7年度用地着手 | H10年度工事着手 | | | |
| 全体事業費 | 359億円 | 事業進捗率 | 98% | 供用済延長 | 0km | |
| 計画交通量 | 20,300台/日 | | | | | |
| 費用対効果 分析結果 | B/C (事業全体) 1.3 (残事業) 49.1 | 総費用 (残事業)/(事業全体) 10.6 / 412億円 (事業費：8.9/411億円) 維持管理費：1.7/1.7億円 | 総便益 (残事業)/(事業全体) 522 / 522億円 (走行時間短縮便益：504/504億円) 走行経費減少便益：18/18億円 交通事故減少便益：0.16/0.16億円 | 基準年 平成19年 | | |
| 感度分析の結果 | 交通量変動 | B/C=1.4(交通量+10%) | B/C=1.1(交通量-10%) | | | |
| | 事業費変動 | B/C=1.3(事業費+10%) | B/C=1.3(事業費-10%) | | | |
| | 期間変動 | B/C=1.2(期間+10%) | B/C=1.3(期間-10%) | | | |
| 事業の効果等 | <ul style="list-style-type: none"> 円滑なモビリティの確保（公共交通機関の利便性が向上し、都市活動に資する） 国土・地域ネットワークの構築（地域高規格道路として整備され、地域ネットワークの都市軸として機能する） 個性ある地域の形成（おおいた国体の各会場への輸送ルートとして大会を支援する） 外5項目に該当 | | | | | |
| 関係する地方公共団体等の意見 | 大分市より毎年、早期完成の要望を受けている。 | | | | | |
| 事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 | 郊外において、大規模施設や住宅団地の開発が進み、大分市中心部への交通量が増加し、交通渋滞は深刻化している。 | | | | | |
| 事業の進捗状況、残事業の内容等 | 平成19年度末事業進捗率は98%を予定しており、用地は買収済みである。平成20年秋の大分国体までの供用開始に向け、引き続き工事を推進していく。 | | | | | |
| 事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 | 一部地権者との用地交渉が難航していたため、事業の進捗が遅れたが、今後は工事を推進し、平成20年度の供用開始を目指す。 | | | | | |
| 施設の構造や工法の変更等 | 再生材（アスファルト等）の利用を促進し、環境に配慮した整備を行っている。 | | | | | |
| 対応方針 | 事業継続 | | | | | |
| 対応方針決定の理由 | 上記を勘案すれば、当初から事業の必要性は変わらないと考えられる。 | | | | | |
| 事業概要図 | | | | | | |

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。